

介護の話題 語り合う場に

ケア・カフェ 音更で初開催



「ケア・カフェ」実行委員会のメンバー。
後列左端が武田実行委員長

来月23日 職員有志が企画

ケア・カフェの開催趣旨・目的や今後の展開について発表する。参加者は5〜6人程度のグループに分かれて、各事業所の取り組みを紹介、理想の介護の在り方などについて意見交換する。話し合いの内容は集約し、情報共有する。

あんじゅ音更で7日に実行委員会が開かれ、開催概要や役割分担などを確認した。継続開催の方針も決め、おおむね3カ月ごと、年4回開くことにした。

武田さんは「気軽に夢を語り合える場所にした。より良い地域ケアや互いの顔が見える横の連携を深めるきっかけになれば」と話している。

参加者は各事業所に配布される案内チラシ裏面の参加申込書に必要事項を記入し、実行委（ファクス0155・30・88805）に3月3日まで申し込む。参加費は1000円。

問い合わせは実行委（あんじゅ音更内、0155・30・8211）へ。
（鈴木裕之）

【音更】町内の医療・介護・福祉に携わる関係者の連携を深めようと、「ケア・カフェinおとふけ」（実行委員会主催）が3月23日午後6時半から同8時まで、介護老人保健施設あんじゅ音更の1階地域交流センター（町中鈴蘭元町2）で開かれる。「ケア・カフェ」は帯広をはじめ管内各地で開催されているが、音更では初めて。

「カフェ」のような気軽な雰囲気の中で福祉に関する話題・情報を共有し、より良いケアを目指す取り組み。日常のケア業務について相談できる場所づくりの

狙いもある。実行委員会は昨年10月、町内の介護福祉事業所、町包括支援センター、町社会福祉協議会、帯広大谷短期大などの職員有志8人で発

足、カフェの開催準備を進めてきた。当日のテーマは「夢をハッスル発する」。武田克仁実行委員長（33）は「あんじゅ音更主任支援相談員Ⅱが